

防犯教本7

子どもの防犯2

9~13歳編（女兒・女子）

通学路と4領域の指導の要点



日本防犯診断士協会

目 次

第一話 基礎知識

子どもたちは何故犯罪被害を受けるのか	2
どうしたら子どもたちを守れるのか／ほか	4
子どもの防犯の基本／12のテーマ／ほか	6
テーマB／9～13歳の防犯、指導法の要点1／3つの防犯力の指導／ほか	7
指導法の要点2／6領域のリスク指導	8
指導法の要点3／4つの指導の要点	10

第二章 6領域の1／通学路のリスク指導

通学路のリスク指導の概要と要点	12
指導の要点1／車を使う三つの手口／声をかけて車に乗せる／ほか	14
指導の要点2／言葉をかけて誘う手口／8パターン	17
指導の要点3／突然襲う5つの手口	19
指導の要点4／性目的・性被害の指導	20
指導の要点5／危険察知力	22
指導の要点6／危険対応力	26
指導の要点7／危機脱出力	28

第三章 6領域の3／遊んでいる時のリスク指導

公園や路上でのリスク指導の概要と要点	32
指導の要点1／言葉をかけて誘う手口「接近法」／「誘いの言葉」	34
指導の要点2／突然襲う手口／六つのパターン	38

第四章 6領域の4／建物の内外のリスク指導

建物の内外のリスク指導の概要と要点	42
要点1／鍵開け時のリスク／鍵開け時の被害回避法	45
要点2～3／集合住宅のリスク1／声かけ・誘い	46
要点4／集合住宅のリスク2／エレベーターのリスク／ほか	48
要点5／突然、襲う手口／ほか	50

第五章 6領域の5／自宅にいる時のリスク指導

自宅にいる時の指導の概要	52
要点1～2／侵入者の手口／侵入者の手口1と2	54
要点3～5／侵入者の手口3～5／無施錠／ほか	56
要点6／侵入者の手口6／合鍵を使う／その他	58
要点7／侵入者の目的と行為	59

第五章 6領域の6／ネットやメールのリスク指導

モバイルに関する指導の概要／ネット&メールに関する7つの基礎知識	62
要点1／性に関するリスク	64
要点2～3／お金に関するリスク／商品売買のリスク	67
要点4～5／情報に関するリスク／メールなどで使う文章の指導	69
要点6～7／匿名性に関するリスク／ネットやメールの注意事項	72
要点8／閉鎖性に関するリスク	74
主な用語／ネットやメールで困った時の連絡先	75
補足 6領域の2／学校内のリスク指導（学校防犯）	76
巻 末	78

第一章 9～13歳／防犯の基礎知識

この年代の子どもたちには、防犯上大きな三つの特徴がある。

一つは、反抗期を迎えることだ。多くは反抗期が、保護者や大人に対する反抗と思われて、悩みの対象になると感じられているが、実際には成長の証であり必然的な自立期なのである。この時期の反抗は、子どもが正常に成長している証ということになる。

注意を要するのはこの時期から、保護者や大人の注意や指導を疎ましく思い、嫌がるという側面が顕在化することだ。保護者や大人の目を離れて行動範囲が広がるようになる。当然リスクが増大することになる。

二つ目は、この年代から男児や男子は「2つの暴力」、女児や女子は「性関連被害」、そして男女ともに「いじめ」などのダメージや被害を受ける確率が高くなるというリスクが発生する。

三つ目は、全国の子どもの犯罪情報を収集すると、この年代の子どもたちが、さまざまな犯罪に遭遇しながら被害を回避したケースがたくさん報告されていることだ。この年代の子どもたちは、適切な指導が行なわれれば犯罪被害を回避する能力が備わっていることを示唆している。

以上のような特徴を考慮すれば、この年代の子どもたちは、自分の命や体、心を守る方法を教えることが効果をともなう指導年齢だということになる。

本書は、子どもたちが自分で自分を守るために必要な防犯知識を分かりやすく指導するために役立つように書かれている。

本章では、子どもの自力防犯「6領域」の防犯指導の前に、必要と思われる基礎知識を解説する。

子どもはなぜ犯罪被害をうけるのか

(何故、子どもたちを守れないのか)

■子どもたちの犯罪被害

(同じ6年間で比較)

一般刑法犯罪の被害数	未就学	小学生	中学生・高校生	総数
総数	461	24,269	154,208 (6.3倍)	178,913
凶悪犯(殺人、強盗、放火、誘拐)	55	112	738 (6.6倍)	915
強姦(レイプ)	3	6	255 (42.5倍)	264
強制わいせつ	67	1,028	2,224 (1.7倍)	3,719
粗暴犯(暴行、傷害、脅迫、恐喝)	237	1,266	9,418 (7.3倍)	10,921
小計	753	2,390	13,036 (5.4倍)	

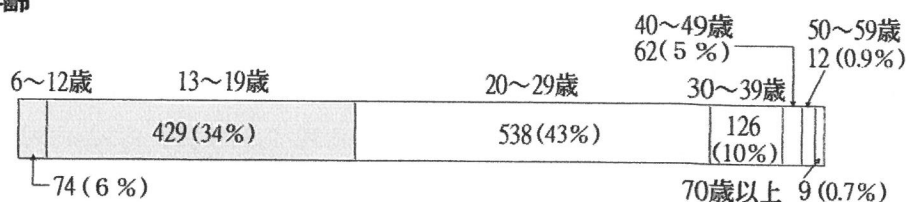
被害を受けた年齢

(数値は平成27年度版「犯罪統計」より)

平成27年度

強姦

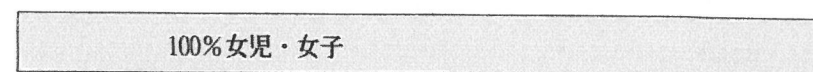
(女子・1,250件)



強姦被害

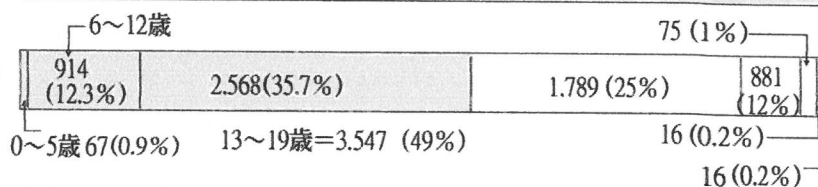
男女比

(女子・1,250件)



平成27年度

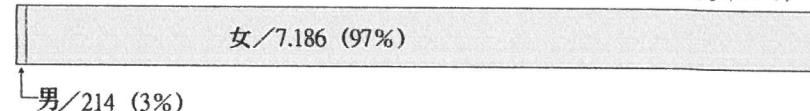
強制わいせつ



強制わいせつ

被害男女比

(7,400件)

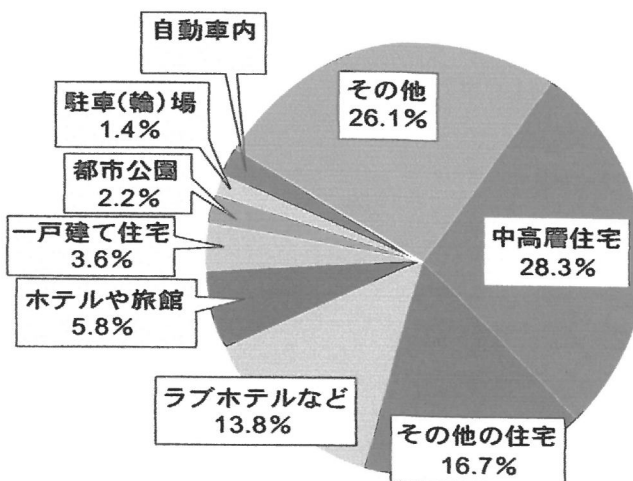


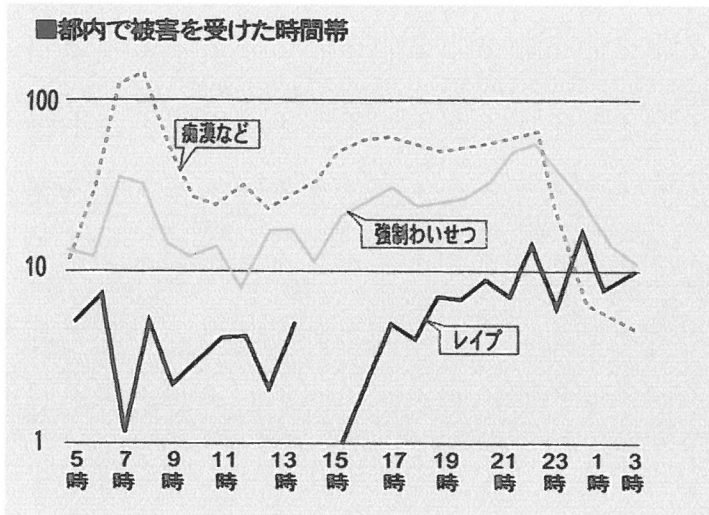
■子どもの被害の実態

20歳未満の罪種別被害一覧表

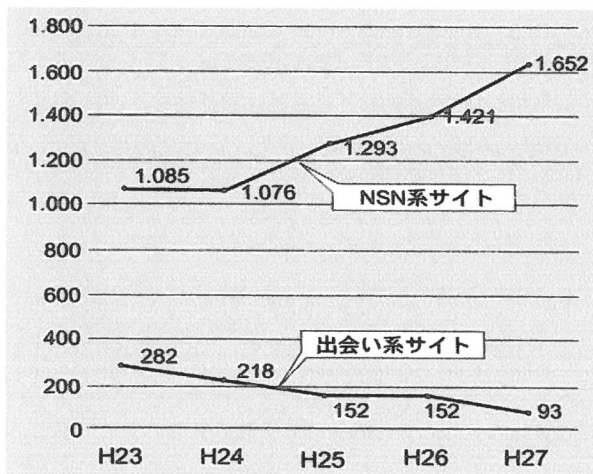
罪種	年齢	0～5歳	6～12歳	13～19歳
一般刑法犯総数		461	24,246	155,208
	1,212,163件	女 237 (51%)	女 7,807 (32%)	女 54,636 (35%)
凶悪犯罪		55	112	738
	6,453件	女 33 (60%)	女 84 (75%)	女 600 (81%)
殺人		40	31	43
	1,053件	女 21 (53%)	女 8 (26%)	女 17 (39%)
強姦		3	74	429
	1,250件	女 3 (20%)	女 74 (100%)	女 429 (100%)
強盗		0	6	255
	3,056件		女 1 (16%)	女 147 (58%)
強制わいせつ		67	1,028	2,625
	7,400件	女 54 (80%)	女 914 (89%)	女 2,568 (98%)
粗暴犯罪		237	1,256	9,418
	65,814件	女 106 (45%)	女 468 (37%)	女 3,376 (36%)
暴行		86/34 (29%)	772/352 (48%)	4,177/2,058 (49%)
傷害		150/71 (47%)	389/97 (25%)	3,800/925 (24%)
脅迫		3,738件	0	32/15 (47%)
恐喝		3,041件	0	63/4 (6%)
				980/85 (7%)

■被害を受けた場所(東京都内)

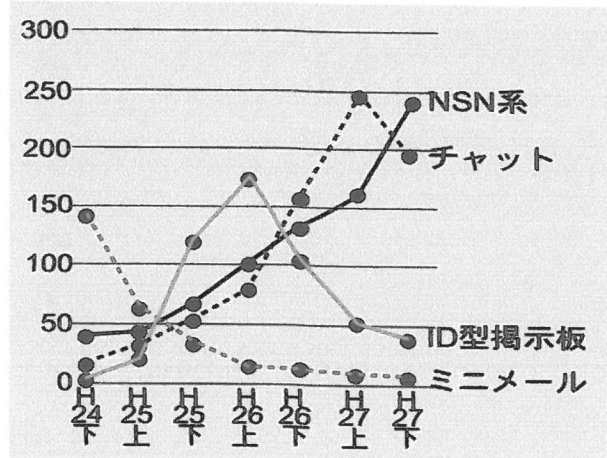




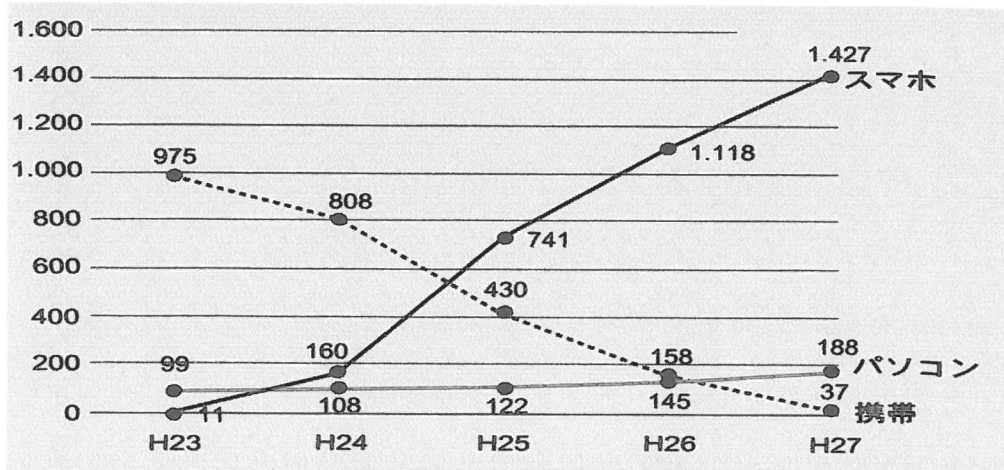
■スマホ・SNSに関する犯罪被害



□NSN系サイト別被害数の推移
(コミュニティサイト)



□ハード別被害数の推移

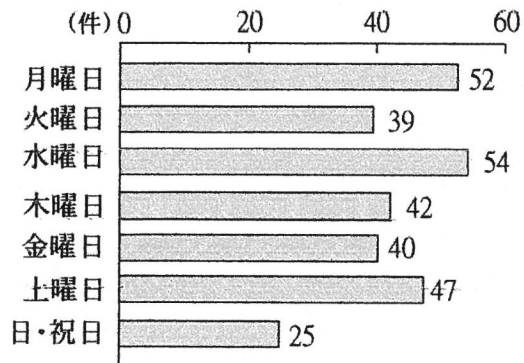


警視庁「平成28年度統計資料」より

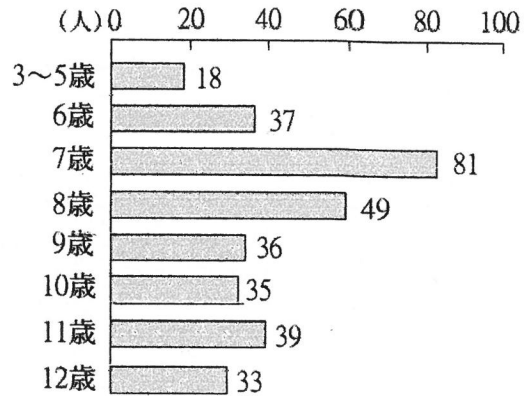
どうしたら子どもたちを守れるのか

子どもをねらった性犯罪の特徴

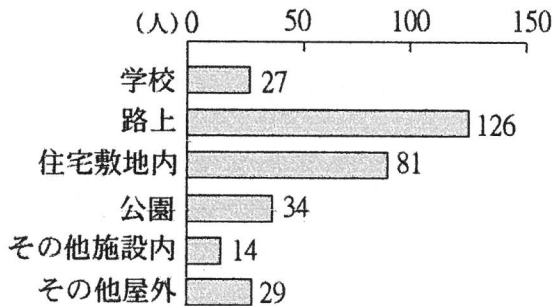
①犯行曜日別事件数



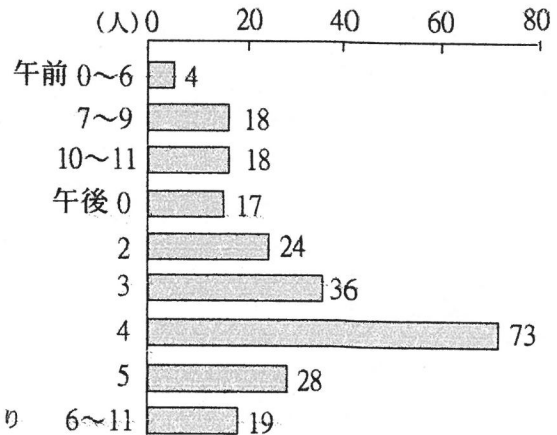
②被害年齢



③被害場所

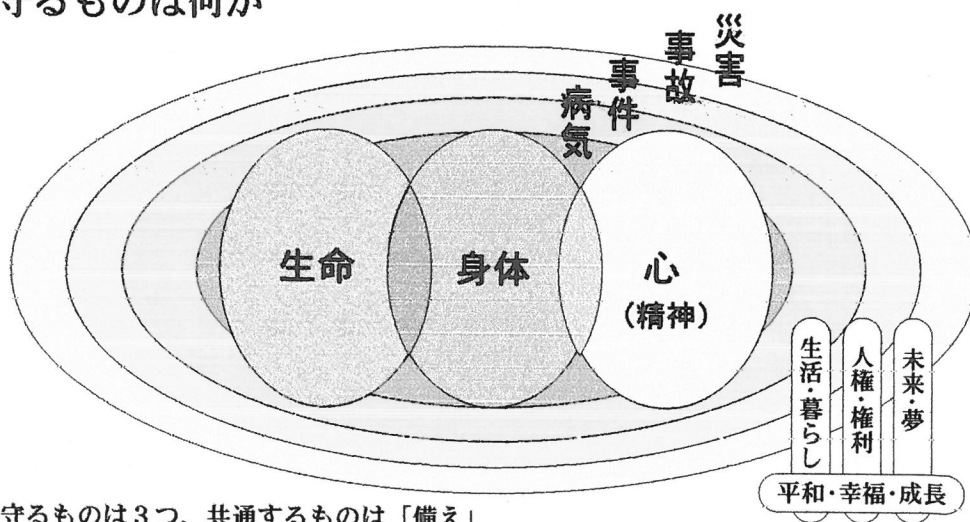


④被害時間帯



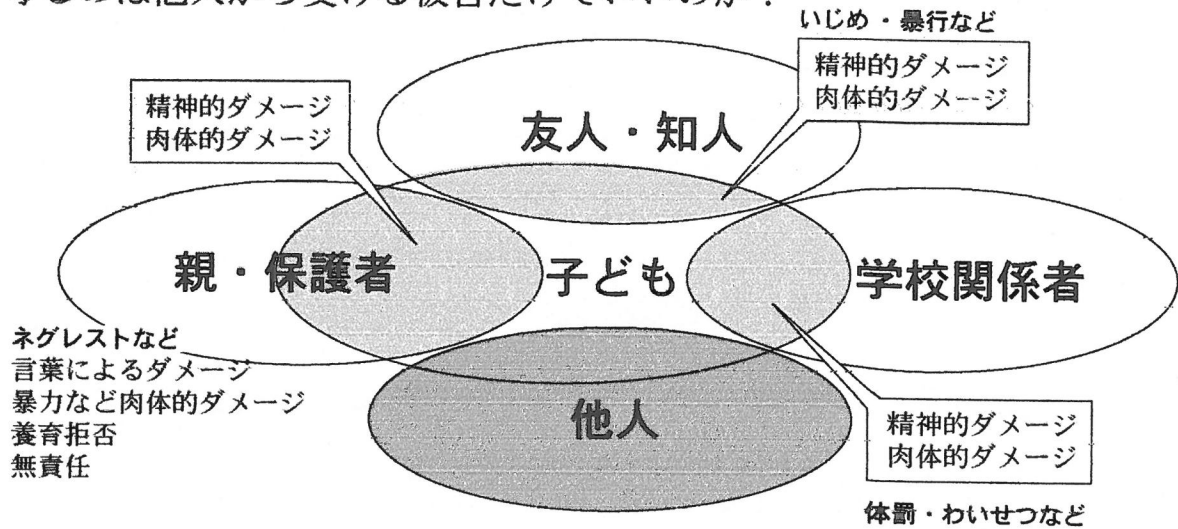
平成18年度版 犯罪白書より

□守るものは何か



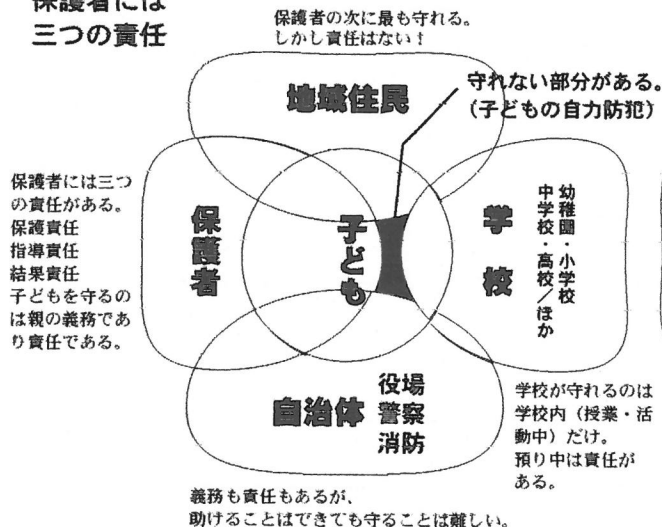
□誰から守るのか

守るのは他人から受ける被害だけでいいのか！

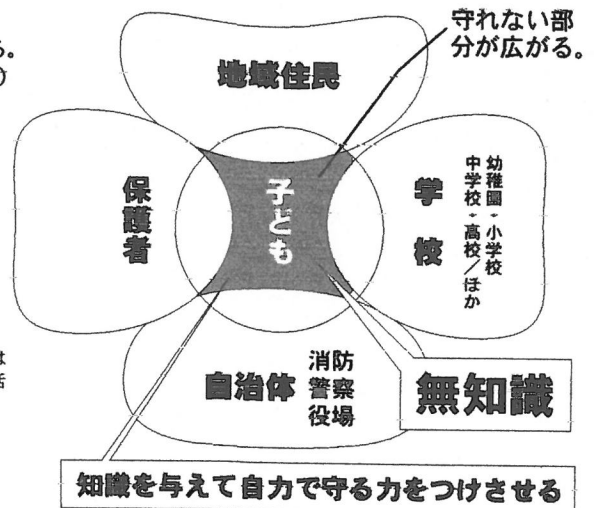


□子どもは誰が守れるのか

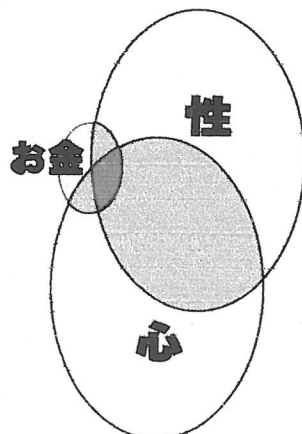
保護者には
三つの責任



成長するにつれ保護者の監視・管理を離れる。
リスクが増大する！



□子どもを狙う犯罪者の動機とタイプ



主な動機は4つ

- 1 「性」関連
- 2 「お金」関連
- 4 「心の荒廃」関連
- 3 「異常者」関連

主なタイプは4つ

- 1 状況型(状況型小児性愛犯罪者)
- 2 退行型(退行型小児性愛犯罪者)
- 3 性癖型(習慣型)
- 4 職業型(小児性愛業犯罪者)

() 内は子どもたちを狙う性犯罪者の表現

(分類は著者の見解)

2～5 ページまでの詳細は「子どもの防犯1 基礎知識編」参照。